

自然と人の文化

多治見市文化財保護センターだより

もくじ

- ・企画展「陶器将軍 加藤助三郎」・・・1
- ・平成29年度カワニナ生息数調査・・・2
- ・多治見市有形文化財「永泉寺惣門」修理・・・2
- ・大原17号窯発掘調査報告・・・3
- ・「多治見駅前 ちょっと昔と大昔散策」・・・3
- ・中学生の職場体験・・・3
- ・文化財防火デー・・・4
- ・コラム多治見の祭り～御鋤祭～・・・4

企画展

陶器将軍 加藤助三郎

開催期間：平成30年2月26日（月）～8月24日（金）

開催場所：多治見市文化財保護センター展示室

加藤助三郎（1857～1908）は明治時代に陶磁器販売店・^{ます}満留寿商會を営む傍ら、全国陶磁器相場を記載した新聞『陶器商報』を発行し、陶業界の情報革命を起こした人物です。また、明治政府の^{しよくたく}囑託として清国を視察するなど、日本陶業界のリーダーの一人として知られています。助三郎はその活躍ぶりや批判に屈しない姿勢から「陶器将軍」と呼ばれました。

助三郎は安政4年（1857）に市之倉で生まれ、明治22年（1889）に東京京橋区南新堀に「満留寿商會」を開店しました。満留寿商會は製造窯元の市之倉に本店、名古屋市坂上町（現名古屋市中東区）に輸出陶磁器を主に扱う支店がありました。満留寿商會の主力商品は、助三郎の郷里・市之倉の特産の盃「^すの盃」で、御大典記念や日清戦争大勝記念、長寿祝など、様々な記念盃を売り出しました。また百個一組ですべて図柄の違う「百図盃」を考案し、見本品を一組3円で販売しています。

満留寿商會はいち早く輸出をはじめ、助三郎が監査役に就任していた神戸・^{じんとう}神陶株式会社で南アフリカ・ケープタウンへ直輸を始めるなど、海外販路の拡充に力を注ぎました。

また、助三郎は陶磁器の卸売での中間利潤が不当に高くされていることが価格高騰を招き、販売を抑制していると考え、同27年（1894）1月より全国陶磁器相場や雑報、広告などを掲載した『陶器商報』を刊行しました。発刊の願書には、

我が国の陶磁業に関する新報雑誌等が今までないことを遺憾に存じ、内外陶磁器の沿革・古今の商状・工芸・進歩の記事を掲載し、殖産興業・商運拡張を図り、海外貿易の道をひらき、国家交易の万一を助けるためにとあり、陶器商報への助三郎の思いを知ることができます。

明治時代は日本が西欧諸国に肩をならべるために、急速な発展が求められた時代です。そのような中で助三郎は陶磁器産地の視察や講話、品評会審査に全国を飛び回り、日本陶業界全体に活力を与えました。本展覧会では明治時代を駆け抜けた陶業界の巨人・加藤助三郎の数々の業績を紹介します。



◀『陶器商報』第一号（明治二十七年一月発行）
多治見市図書館郷土資料室蔵



▲満留寿商會名古屋支店決算記念撮影
（前列右から3人目が加藤助三郎、
明治29年、個人蔵）



▲満留寿商會鳩杖盃
（個人蔵）

平成 29 年度 北小木川のカワナ生息数調査結果

文化財保護センターでは、市天然記念物である「北小木のホタル」の調査の一環として、毎年秋にホタルの幼虫のえさであるカワナ（巻貝の一種）の調査を行っています。今年度の調査は11月1日に、ホタルの発生する北小木川と神明洞川の計14地点で行いました。

今回カワナの全体数は、少なかった昨年度よりもさらに減少しました。特に天王橋よりも上流の地点では大幅に減りました。これまでの調査によりホタルの発生数はカワナの数の増減に比例することが分かってきていますが、それ以外に天候や気温の変化、河川工事等の人為的な環境変化にも大きく左右されていることがわかります。今後も調査を続けていきデータを蓄積し、ホタルの保護に役立てていきたいと思っております。

最後になりましたが、参加していただきました皆様には、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

カワナの平均個体数・合計数とホタル合計生息数

(50cm×50cm、H6年、H7年カワナ平均個体数は、調査地点の一部の平均値)

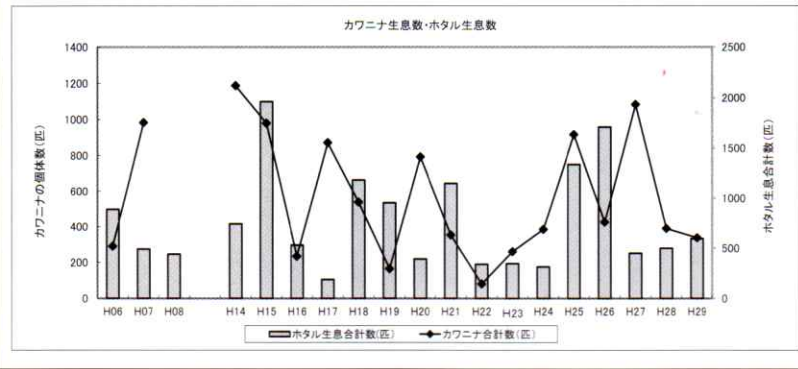
	H06	H07	H08	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
カワナ合計数(匹)	290	982		1187	979	234	870	538	165	791	353	80	260	385	915	426	1082	390	338
ホタル合計数(匹)	888	489	439	743	1963	529	189	1183	954	391	1149	338	345	313	1337	1709	449	498	596

※H8～13年まではカワナ調査なし。

※H16年以降のホタル数は三面張改修地点を含む。

※■はホタル大発生年のホタル数。■はホタル大発生の前年のカワナ数。

※H22、23年は護岸工事を行っている。



多治見市有形文化財「永泉寺惣門」修理



▲ 屋根瓦の葺き替え

永泉寺惣門は天保14年(1843)に多治見市池田町出身の野村作十郎によって再建されました。多治見市内に現存する薬医門で、かつ建立年代がはっきりしている門の中では最も古く、地域にとって歴史的価値が高いことから、平成26年12月18日に多治見市有形文化財に指定されました。

惣門は経年劣化により傷みが進んでいたため、保存修理が行われました。修理は屋根瓦の葺き替え、袖塀の漆喰の塗り替え、袖塀の控柱の基礎部分の取り換え、門扉の金具補修等を行いました。また、耐震診断に基づき、面格子や杭を打つなどの耐震補強も行っています。

平成28年度から始まった修理は平成29年10月で終了しました。



▲ 漆喰塗り替え前の袖塀



◀ 修理後の惣門と袖塀



◀ 門扉の金具補修



◀ 耐震補強

大原 17 号古窯跡発掘調査

場所 多治見市幸町地内

期間 平成 29 年 5 月 19 日～平成 29 年 5 月 31 日

調査面積 約 100 m²

大原 17 号古窯跡は幸町三丁目地内に所在した平安時代の古窯跡です。この窯の発掘調査は民間事業者による土地造成工事に伴い実施しました。市内大原町・幸町には古代から中世にかけての古窯跡群である大原古窯跡群があり、本窯もその古窯跡群を構成する一つです。窯体部分は開発範囲外だったため現状保存となり、開発により滅失する物原部分の約 100 m²を発掘調査することになりました。出土遺物の主体は灰釉陶器の碗・皿類であり、その器形等の観察から、本窯は 10 世紀後半に稼働していたとみられます。碗・皿の他には僅かですが鉢や瓶類等も出土しました。通常、南向きや東向きの斜面に窯を築くことが多いのですが、この窯は北向き斜面に築窯されている点が特徴的です。



▲ 発掘調査の様子



▲ 出土遺物（灰釉陶器）

文化財講座

「多治見駅前 ちょっと昔と大昔散策」

平成 29 年 12 月 16 日（土）13：30～16：00

企画展「発見！地中に眠る多治見の歴史—住吉・駅北・笠原の発掘調査報告展—」の関連講座として、多治見駅周辺に残る歴史や遺跡を訪ねる街歩きを行いました。

この日巡ったコースは、①虎溪道道標・街道分岐点—②大日如来の社叢—③多治見駅—④笠原鉄道の踏切跡地—⑤大エノキ—⑥清水地蔵尊・秋葉山燈籠他—⑦虎溪用水広場（七ツ塚遺跡）と、7つのポイントでそれぞれの歴史について解説しました。

今回の講座には、中之郷[※]を語る会の会員を講師として招き、主に駅周辺と田代町（③～⑥）のお話をいただきました。田代町の昔の様子や、古文書等を基に調べた歴史を解説していただき、地元の方の想いの詰まった貴重なお話を伺うことができました。この田代町での解説は大いに盛り上がり、参加者も楽しそうに聞いていました。

※田代町・白山町など旧中之郷村域。



▲ 笠原鉄道踏切跡地にて解説中

中学生職場体験

今年度の中学生職場体験は 8 月に陶都中学校 2 年生 4 名、10 月に小泉中学校 2 年生 4 名、11 月に南ヶ丘中学校 2 年生 3 名の職場体験を受け入れました。文化財保護センターでの職場体験は、まずセンターの活動について（1、指定文化財保護、2、埋蔵文化財調査、3、普及啓発）の説明をし収蔵庫や展示室の見学をしたあと、学芸員の仕事や出土遺物の整理作業を体験してもらっています。

今年度は、文化財保護センターが行う調査や作業と日程が重なったこともあり、例年とは違った特別な体験をすることが出来ました。その一つは、市内のお寺で行っていた史料調査です。生徒たちはお寺に伝わる江戸時代の書物を実際に手にとり、1点1点調書をとるという作業をしました。

他に、コウモリ調査やシデコブシ調査にも参加しました。生徒たちはさまざまな体験を通し、文化財保護センターの仕事の大変さとともに、後世に残していくという役割の重要性を学んでくれたようです。



▲ 遺物整理作業（縄文土器の拓本）



▲ 史料調査の様子

平成 29 年度文化財防火デー

毎年 1 月 26 日は文化財防火デーで、全国的に文化財防火運動が行われます。多治見市でもこれに合わせ、市内の文化財防火点検と永保寺の防火訓練を行っています。

文化財防火点検 (1 月 15 日、19 日、22 日、26 日)

市内の文化財を所有する施設の立入点検を行いました。文化財所有者の皆様、ご協力ありがとうございました。



▲ 放水銃の点検 (消防本部)



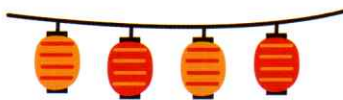
▲ 漏電等の点検 (中部電力)

永保寺防火訓練 (1 月 28 日、9:00 ~)

「永保寺保寿院付近で林野火災が発生し、国宝建造物の観音堂・開山堂に延焼の危険あり」という想定の実演訓練が行われました。消防関係者、永保寺自衛消防隊など約 100 名が参加しました。



▲ 放水の様子



コラム 多治見の祭り

おくわまつり 〜御鋤祭〜



市内で行われる秋の祭りのひとつに、「御鋤祭」というものがあります。これは、笠原神明宮に合祀されている御鋤神社の祭りで、毎年 9 月 1 日に行われます。

御鋤神社は豊受姫大神を祭神とし、農業や商売、生活の守護神として古くから信仰されています。御鋤祭の行われる 9 月 1 日は台風が襲来する時期で、その影響で米を収穫できなくなることがないように豊作を祈るのだといいます。

御鋤祭は、神明宮本殿で神事を行った後、参道から本町通りを練り歩く神輿行列が行われます。通りの突き当りの「御旅所」(神様の仮の安置所)まで行くと御旅所祭を行い、再び神明宮に向かって行進します。神明宮まで戻ると、最後に木で作られた鋤を神社に奉納して豊作を祈ります。行列には獅子も加わり、子どもたちとふれあいながら進んでいきます。この祭りは猿田彦(天狗)役や神輿の担ぎ手など、厄年の男性達が祭りの担い手となって行われており、地域に伝わる信仰として、大切に継承されています。



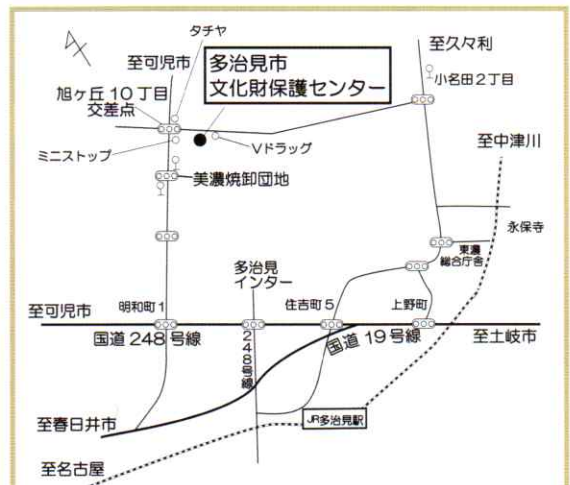
▲ 御鋤祭の様子 (写真中央: 猿田彦)

〈利用案内〉

開館時間: 9:00 ~ 17:00 休館日: 土・日・祝日、年末年始
入場無料

〈交通案内〉

タクシー: 多治見駅から約 20 分
バス: 東鉄バス「美濃焼団地前」下車 徒歩 5 分



自然と人の文化

No.51 2018.3

編集/発行 多治見市文化財保護センター

〒507-0071

岐阜県多治見市旭ヶ丘 10-6-26

TEL (0572)25-8633 FAX (0572)24-5033

URL <http://www.city.tajimi.lg.jp/bunkazai/>

発行部数: 1300 部 (税抜 24,050 円)

この冊子は環境に配慮した紙・インクを使用しています。